

2016年4月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、北米西部、グリーンランド、西・中央シベリアで正偏差、太平洋北部、カナダ東部、ヨーロッパ北西部で負偏差となった。日本付近では北日本を除いて正偏差となった。偏西風は、日本付近からその東海上にかけては平年の位置と比べて北寄りを流れた。海面気圧をみると、太平洋高気圧の南西への張り出しが強く、ユーラシア大陸の広い範囲では低気圧偏差となった。帯状平均した気温は、対流圏では広く高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、中部太平洋赤道域で活発、ベンガル湾～北太平洋熱帯域の西部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月を通して不明瞭だった。対流圏下層の太平洋中部では低気圧性循環偏差となり、赤道域の南半球側では西風偏差となった。対流圏上層では、太平洋中部で高気圧性循環偏差が南北半球対で見られた。南方振動指数は-1.4だった。

世界の天候

2016年4月の世界の月平均気温偏差は+0.54°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、最も高い値となった。4月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.76°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

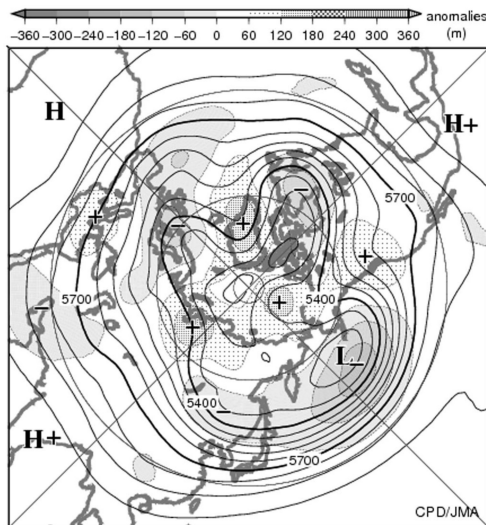
- 低緯度域の各地で異常高温となった。
- 米国中西部～南部で異常多雨となった。
- カナダ東部で異常低温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

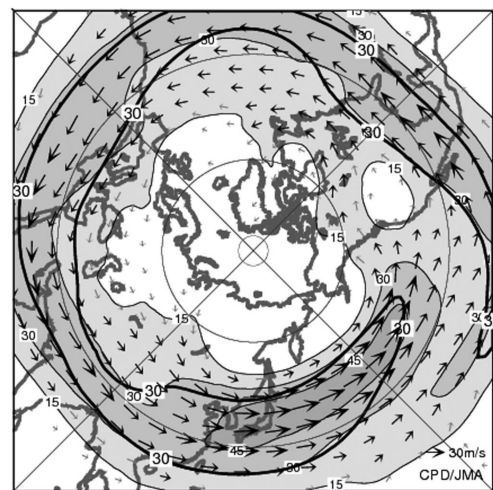
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

「気候系監視速報」をご覧ください。

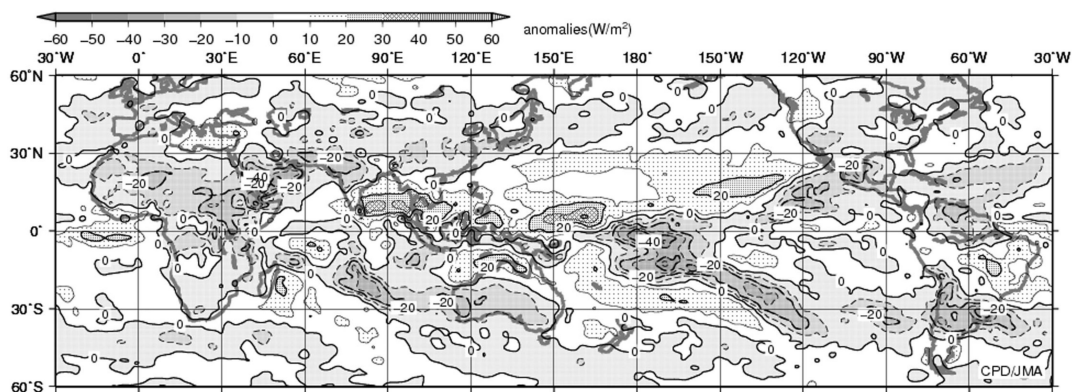
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



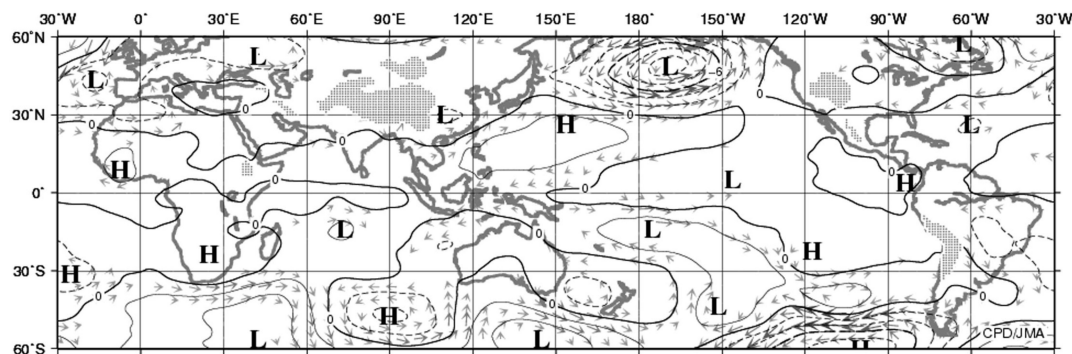
2016年4月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



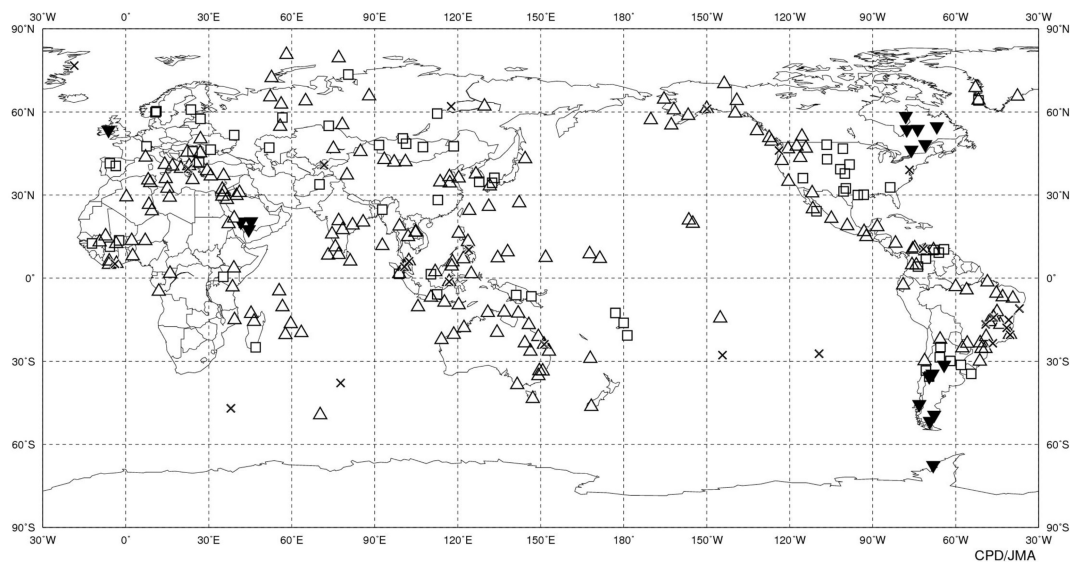
2016年4月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル
等値線間隔は15 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は30 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2016年4月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2016年4月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1981～2010年の平均値。



2016年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。